

レクリエーション行動におけるパーティットリップ調査の適用

岩手大学工学部 正会員 安藤 昭
岩手大学工学部 正会員 赤谷隆一
岩手大学工学部〇学生員 神谷順一

1.はじめに

近年生活水準の向上と予想される余暇時間の増加に伴い、我が国でもレクリエーションの重要性が認識され始めている。とりわけレクリエーション空間の創出は個性豊かな人間居住環境づくりに不可欠であり、なかでも人間性の回復が叫ばれている現在、市街地及び周辺に存在する環境緑地（森づくり）の意義は大きいといえよう。

しかし、日本における環境緑地は欧米のそれに比べ質・量ともに劣っている。そこで本研究では環境緑地育成に際してレクリエーション空間の面から基礎的調査研究方法の確立を目指し、交通需要推定に用いられるパーティットリップ調査を適用した。これにより、地域住民の環境緑地における実際のレクリエーション行動を客観的定量的に把握し、施設間トリップ量からレクリエーション施設間の結びつきの構造化を行い、創造的保全（creative conservation）という視点にたたた環境緑地の育成について検討・提言するものである。

2. 調査方法

調査対象地域は盛岡市中心部北側の北山緑地であり、被験者として盛岡市内に居住する5才以上の男女をランダムサンプリングで選定し、レクリエーションパーティットリップ調査票を留め置き法により配布した。

調査対象期間は、春季昭和61年3月～5月、夏季6月～8月、秋季9月～11月の三季であり、この調査をそれぞれ春季昭和61年6月6日～17日、夏季9月10日～20日、秋季12月1日～10日行った。

調査内容は、北山緑地内において被験者がレクリエーションを行った調査対象期間内のある1日の行動を記入するというもので、春季は1000人に配布し、有効回答者464人、有効回答率46%、夏季は800人に配布し、有効回答者357人、有効回答率45%、秋季は920人に配布し、有効回答者411人、有効回答率45%，全体として2720人に配布し、有効回答者1232人、有効回答率45%であった。

3. 解析結果及び考察

1) 性・年令別1人当たり平均トリップ数（表-1）

全体としては、自宅を出発し、1～2ヶ所の施設でレクリエーションを行い、帰宅するというトリップが多い。また、男女それぞれの全体でのトリップ数はほとんど同じであった。

年令階層別にみると、男性では15～40才において、女性では10～20才、35～55才、60～65才において全体の平均トリップ数を上まわっており、男性では年令によるトリップの集中が、女性では分散がみられた。

2) 季節別1人当たり平均トリップ数及び季節別・目的別トリップ数とその構成比（表-2）

平均トリップ数はわずかに夏と秋が多いが、三季を通じてはほとんど同じであった。目的別トリップ数では「自宅へ」を除くと、春季は散歩・散策をはじめとして花見、娯楽・遊び、墓参りなどのトリップ数が多く、特に高松の池という桜の名所があるため花見の多いことが特色である。夏季は散歩・散策、墓参

表-1 性・年令別1人当たり平均トリップ数

年齢階層	性別						全般
	トリップ数	人口	年令トリップ数	トリップ数	人口	年令トリップ数	
5～10	0	0	0	0	0	0	3
11～15	13	14	9	17	15	12	30
16～20	47	14	32	59	21	21	223
21～25	22	14	16	25	14	16	130
26～30	22	14	16	25	14	16	130
31～35	139	46	302	214	79	2703	353
36～40	183	63	397	301	107	2813	464
41～45	149	52	303	203	93	303	397
46～50	104	39	2887	170	68	2831	274
51～55	104	39	2887	170	68	2831	274
56～60	123	45	711	189	88	2833	289
61～65	183	73	2644	162	62	923	345
66～70	69	2763	98	37	2843	240	90
71～75	0	0	0	0	0	0	0
76～80	0	0	0	0	0	0	0
81～85	0	0	0	0	0	0	0
86～90	0	0	0	0	0	0	0
91～95	0	0	0	0	0	0	0
96～100	0	0	0	0	0	0	0
全般	1450	614	2821	1767	828	2814	3467
全般	1450	614	2821	1767	828	2814	3467

表-2 季節別1人当たり平均トリップ数及び季節別・目的別トリップ数とその構成比

季節	季			全般
	春	夏	秋	
1. 散歩・散策	29 (2.2)	64 (6.38)	29 (1.71)	120 (2.71)
2. ハイキング	29 (2.2)	64 (6.38)	29 (1.71)	87 (1.83)
3. バイク	39 (3.05)	18 (1.78)	30 (2.56)	87 (2.62)
4. 自転車	39 (3.05)	18 (1.78)	30 (2.56)	87 (2.62)
5. 歩行	180 (11.75)	165 (10.70)	90 (6.00)	187 (4.63)
6. 徒歩	0 (0.00)	0 (0.00)	12 (1.02)	12 (0.28)
7. 散歩	0 (0.00)	0 (0.00)	12 (1.02)	12 (0.28)
8. リフレッシュ	3 (0.23)	2 (0.10)	18 (1.36)	20 (0.58)
9. 娯楽・遊び	13 (1.02)	7 (0.70)	18 (1.36)	38 (0.93)
10. 娯楽	13 (1.02)	7 (0.70)	18 (1.36)	38 (0.93)
11. 花見の準備	0 (0.00)	1 (0.10)	2 (0.17)	3 (0.09)
12. 花見	1 (0.07)	1 (0.10)	1 (0.10)	41 (1.07)
13. 散歩・散策	1 (0.07)	1 (0.10)	1 (0.10)	41 (1.07)
14. 散歩	6 (0.45)	6 (0.60)	2 (0.17)	8 (0.24)
15. 散策	20 (1.57)	16 (1.63)	33 (2.81)	68 (2.02)
16. 散歩・散策	64 (4.82)	53 (5.26)	36 (3.07)	153 (4.07)
17. 散歩・散策	39 (3.06)	22 (2.18)	38 (3.32)	100 (2.88)
18. 散歩	56 (4.38)	53 (6.26)	37 (3.05)	148 (4.22)
19. 散歩	35 (2.74)	35 (3.48)	23 (1.96)	93 (2.69)
20. 散歩	36 (2.82)	34 (4.27)	47 (3.08)	137 (3.77)
21. 散歩	46 (3.63)	38 (3.84)	47 (3.08)	1230 (35.89)
22. 散歩	35 (2.88)	37 (3.67)	33 (2.81)	103 (2.88)
23. 散歩	1 (0.33)	3 (0.77)	28 (1.96)	76 (2.02)
全般	1277 (10.00)	1007 (10.00)	1173 (10.00)	3487 (10.00)
年令トリップ数	2702	2211	1004	906

り、スポーツのトリップ数が多かった。また秋季は散歩・散策かずばぬけて多く、次いで墓参りの順であった。全体的な特色としては散歩・散策のトリップ数が抜きんでて多かった。

3) 着施設別トリップ量及び施設

相互間トリップ量(表-3)

表-3より市民のレクリエーション

ヨントリップ量からみた北山緑地内各施設の利用動態と各施設間の結びつきの大きさの程度を読みとることができる。

まず各施設の着トリップ量から施設の重要度をみると、高松の池が抜きんでており、そのほかには中央公民館、北名須川寺院群、榎山稻荷神社、愛宕山展望台が多く、

これらは年間を通じて利用されていた。また季節的には夏に市民プールへのトリップが多かった。

(図-1)

次に各施設間の結びつきをみるために63のレクリエーション施設について施設相互間トリップ量を図示すると、図-2のようになる。これによると、各施設は盛岡バイパスを境に南北1つずつのグループになっていることがわかる。南側は寺院群が結びついたグループであり、一方北側グループは高松の池-市立図書館-榎山稻荷神社-聖寿寺と、中央公民館-愛宕山展望台という2つの核をもち、盛岡競馬場まで含んだ広範囲のものである。このことは、北山緑地における動線のネットワーク構成にとって有用なデータになると考えられる。

4. 検討及び提言

以上の結果と先の大宮によるイメージ調査の結果により、レクリエーションパターンからみたレクリエーション施設の配置を考える。具体的な提言として、北側グループにおいてはまず第1に地形を活用した動線のネットワーク構成を行う。これには現在の北山散策路を直線基軸とした直線経路網と曲線経路網を重ね合わせたデザインが最適であると思う。これによると、それぞれの経路を利用した場合、同一緑地でありながら全く異なった空間や景観(岩手山、駒ヶ岳等の仰瞰や市街地、高松の池等の俯瞰)が味わえるであろう。またこれに伴い、やぶ地を取り払う林床改良も行ない、その他には動植物の観察施設(觀察塔、ハイド等)、展望施設、休息施設の配置等が考えられる。第2に交通網の整備として、バス路線の北山緑地までの延長と周縁部への無料駐車場の設置がある。また南側の寺院地区においては面的な歩道網の整備が必要である。

施設名	施設別相互トリップ量及び施設別総トライップ量																				合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	17	18	26	29	30	31	37	44	47	48	51	
1 高松の池	15	9	2	4	12	13	8	6	4	22	2	10	0	1	0	6	6	9	10	1	54.8
2 朝霧	4	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	1	0	4.0
3 三井リゾート	3	1	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.0
4 川内公園	2	1	3	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.6
5 北山公園(公民館一工事)	3	0	1	2	1	2	2	10	0	1	0	0	0	1	0	4	0	0	0	2	5.7
6 北山公園(三州一里塚)	6	0	0	0	3	0	1	1	0	4	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	4.6
7 高松四十日間コース	9	1	1	0	2	3	0	1	0	2	0	2	0	1	0	2	0	1	0	0	6.0
8 武石山展望台	4	0	1	3	7	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	18	0	0	1	3	7.8

上記の施設は、調査時の計測から得られたトライップ量によって施設別トライップ量に上位の施設を抽出したものである。尚、合計については表-2を参照してほしい。

